



抱一に捧ぐ

花ひらく

琳派展24

雨華庵の

絵師たち

2024年
12月7日(土) ~ 2月2日(日)
2025年

一部展示替えあり

開館時間 午前10時 ~ 午後5時 休館日 毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日)、年末年始(12月26日 ~ 1月6日)
入館料 一般 1800円 学生 1300円 主催 細見美術館 京都新聞 特別協力 有限会社うげやん
会場 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3 TEL 075-752-5555 <http://www.emuseum.or.jp>
○会期・営業日時等を変更する場合があります。詳しくはWEBサイトをご覧ください。

- 1 酒井抱祝(朝桜図)大正期、昭和前期
- 2 酒井抱祝(鯉に燕子花図)昭和9年(1934) 細見美術館蔵
- 3 酒井道一(寫に女郎花図)明治期
- 4 酒井道一(藤に牡丹図)明治期
- 5 酒井抱一画 小鷲賛(紅梅図)文化7年(1810) 細見美術館蔵
- 6 山本素堂(朱楓園屏風)江戸後期 ※すべて部分

Sacred place for Edo Rimpa – Atelier “Ugean” adoring Hoitsu

江戸琳派を確立した酒井抱一（1761～1828）は、姫路酒井家の次男に生まれ、江戸の大名屋敷で育ちました。37歳で出家した後、50歳を目前にした文化6年（1809）師走、身請けした吉原の遊女とともに移り住んだのが下谷根岸の百姓家でした。同所はのちに「雨華庵」と呼ばれるようになります。

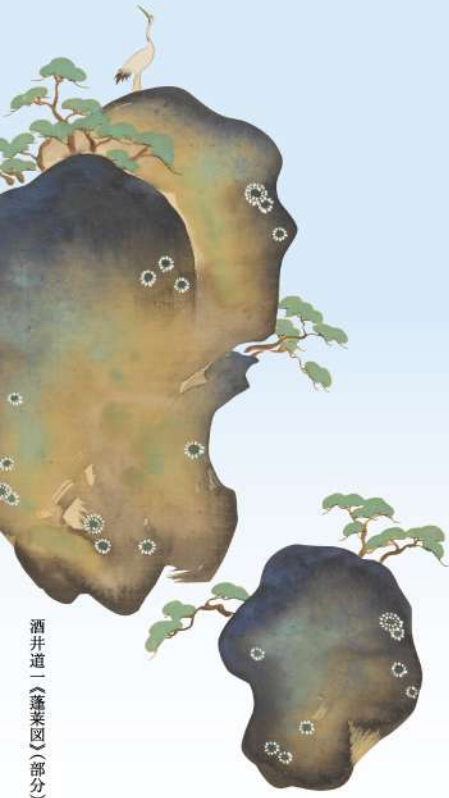
終の棲家となる「雨華庵」は抱一が晩年作を描いた作画の場であり、弟子たちを指導する画塾でもありました。その没後は養子・鶯蒲（雨華庵2世 1808～41）、鶯一（3世 1827～62）、道一（4世 1845～1913）、抱祝（5世 1878～1956）らが継承、門下の絵師たちの拠りどころとなりました。

本展は「雨華庵」ゆかりの絵師たちを多角的に蒐集した「うげやんコレクション」の協力を得て開催される江戸琳派の競演です。同コレクションには稀少な作例も多く、これに細見コレクションから「雨華庵」に纏わる作品を加え展覧します。

抱一に憧れ、慕った絵師たち―戦後に至るまで150年余り及び江戸琳派の軌跡とその魅力をご堪能ください。

雨華庵

抱一が50歳頃から没年まで住んだ庵。今の東京都台東区根岸5丁目付近とみられる。仏間や画室があり、庭には四季折々の花木が植えられていた。抱一を慕う江戸琳派の絵師たちや抱一作品の愛好者にとって聖地ともいえる場所。抱一自身や代々の後継者も「雨華庵」と称した。「雨華」とは「仏説無量寿経」の「天雨妙華」に基づくことされる。



酒井道一（蓬萊園）（部分） 明治期

抱一作品はここから生まれた！

アトリエ 雨華庵



酒井抱一画 小鶯贊（紅梅図）文化7年（1810）細見美術館蔵



酒井鶯蒲（筑波山之図）江戸後期

ポスト抱一、 2世鶯蒲と仲間たち



山本素堂（朱楓園屏風）江戸後期

維新後の江戸琳派は
お任せ！
4世道一



酒井道一（蓮華草園）明治期

酒井抱祝（十二月花鳥図屏風）（右隻）
大正期、昭和前期



展示期間：1月7日～2月2日

稲垣其連（立雛図）（部分） 江戸後期、明治期

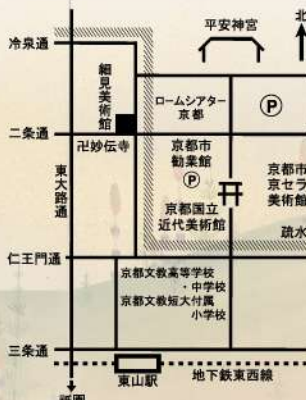


これからの展覧会
細見コレクション
若冲と江戸絵画
2025年3月1日（土）～5月11日（日）

細見美術館

5世抱祝、 昭和まで抱一画風をキープ

ほうしゅうく



- 市バス「東山二条・岡崎公園口」下車、徒歩3分。
 - 市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車、徒歩5分。
 - 地下鉄東西線「東山」駅下車、徒歩10分。
- ご来館には公共交通機関をご利用ください。

山本光一（春坡士華園屏風）（部分） 江戸末期、明治期

